

高齢者が参加するサークルの意義とアクセス

高齢者が自立できる社会形成に関する研究 その7

正会員○久野貴行*2

同 友清貴*1

同 山下 剛*2

1. 研究の目的と方法

わが国では世界に類を見ないほどの速さで高齢化が進んでいる。また核家族の進行や扶養意識の変化によって、高齢者世帯が増加している。しかし、これに対応する経済や人材育成も容易ではない。本研究では高齢者の自立において、特に精神的自立の根底にある「生きがい」に注目し、高齢者の生きがいと地域社会との関係から、高齢者が生きがいを持つためにはどのような社会・生活環境を整備すべきかを明らかにすることを目的としている。

そこで本稿においては、これまでの研究で地域のサークル活動が高齢者の生きがいに影響を与えることが分かっていることから、サークル活動に焦点をあて、高齢者にとってのサークル活動の意義とアクセスの現状について探り、それを取りまく社会環境の在り方を提案することを目的とする。

研究の方法としては、高齢者が参加しているサークルで行ったアンケート調査をもとに分析する。質問項

【表1】栗野町の概要

位置	東経130° 43' 北緯31° 43' 鹿児島県の北々東部に位置する。
気象	温暖多雨の内陸性気候。標高が比較的高く霧島山系の複雑な気候条件に左右されやすい。
面積	89.85km ² で、最長は東西で12.8km、南北8.4kmとなっている。
人口	8,749人、県総合人口の0.4%を占める。高齢人口は1,935人、生産人口(15~64歳)は5,350人である。
産業	第1次産業26.8%、第2次産業34.7%、第3次産業38.5%である。
高齢化率	22.1%、さらに平成12年の推計人口によると高齢化率は30.8%と予測される。
世帯数	総世帯数は3,146世帯、65歳以上のいる世帯は1,307世帯、高齢独居世帯は325世帯、高齢夫婦世帯は718世帯。

【表2】調査概要

サークル名	活動時間	登録人数(男/女)	調査人数(男/女)	65歳以上人数	平均年齢
デイサービス	3日/月・6.0h	394(66/328)	156(18/135)	155(18/135)	77.6
ひばり教室	2日/月・1.5h	50(0/50)	29(0/28)	18(0/17)	68.1
紙粘土教室	2日/月・3.0h	28(0/28)	5(0/5)	1(0/1)	59.5
生け花	2日/月・2.5h	16(0/16)	3(0/3)	1(0/1)	59.3
書道	4日/月・2.0h	25(5/20)	7(4/3)	3(1/2)	62.4
手芸	1日/月・3.0h	-(- / -)	10(0/10)	9(0/9)	72.7
ちぎり絵	1日/月・2.0h	-(- / -)	7(0/7)	5(0/5)	67.9
ドライフラワー	2日/月・2.5h	10(0/10)	6(0/6)	2(0/2)	57.7
詩吟	2日/月・2.0h	21(2/19)	12(1/10)	8(0/7)	72.1
ヨガ	4日/月・1.5h	12(0/12)	10(0/10)	7(0/7)	67.1
高齢者大学(園芸)	1日/月・3.0h	64(31/33)	22(16/6)	22(16/6)	71.9
高齢者大学(踊り)	1日/月・3.0h	14(0/14)	3(0/3)	3(0/3)	76.9
高齢者大学(川柳)	1日/月・3.0h	9(4/5)	9(1/8)	9(1/8)	75.2
高齢者大学(手芸)	1日/月・3.0h	17(0/17)	10(0/10)	12(0/10)	71.7
合計		293(40/244)	253(36/213)	253(36/213)	74.0

男女の合計が合わないのは未回答のため
男性平均年齢:76.2 女性平均年齢:73.7
趣味の会(デイサービス以外)平均年齢:69.6
デイサービス参加平均年齢:77.6

目の「サークル参加のきっかけ」をサークルに参加しようと考えた最初の目的と捉える。また「サークル内での生きがい・楽しみ」の項目を現在のサークル参加の目的と捉え、この2つの比較により高齢者とサークルの関係性を考察する。

次にサークルへのアクセスの現状を交通手段から把握し、高齢者のサークルへのアクセスのあり方について考察する。

2. 調査概要

平成7年11月に鹿児島県栗野町で、高齢者が参加している趣味の会(町中心部に位置する中央公民館)とデイサービス(中心部近郊にあるデイサービスセンター)において、アンケート用紙を配布、調査を実施した。調査は当日の参加者全員を対象として行い、回答数は293件であった。分析は65歳以上の高齢者のみの262件を用いて行う。栗野町の概要、調査概要は表1~4に示した通りである。

【表3】調査結果の単純集計

性別	調査人数	65歳以上人数		性別	調査人数	65歳以上人数	
		男	女			男	女
男性	40(13.7)	36(13.7)		一人暮らし	98(33.4)	96(36.6)	
女性	244(83.3)	218(83.2)		夫婦のみ	90(30.7)	68(26.0)	
不明	8(2.7)	8(3.1)		本人+子孫	65(22.2)	65(24.8)	
年齢	65歳未満	31(10.6)	-(-)	世帯構成	夫婦+子孫	15(5.1)	12(4.6)
	65-69歳	30(10.2)	30(11.5)		本人+兄弟	3(1.0)	2(0.8)
	70-74歳	79(27.0)	79(30.2)		夫婦+兄弟	0(0.0)	0(0.0)
	75-79歳	75(27.6)	75(28.6)		その他	5(1.7)	3(1.1)
	80歳以上	69(23.5)	69(26.3)		不明	16(5.5)	15(5.7)
	不明	9(3.1)	9(3.4)		健康	142(48.5)	116(44.3)
					健康だが外出できない	121(41.3)	116(44.3)
居住年数	0-4年	11(3.8)	5(1.9)	健康	21(7.2)	21(8.3)	
	5-9年	9(3.1)	4(1.5)	病気がち	8(2.7)	8(3.1)	
	10-19年	12(4.1)	7(2.7)	不明	68(23.2)	60(22.9)	
	20-29年	12(4.1)	9(3.4)	就	210(71.7)	187(71.4)	
	30-49年	49(16.7)	44(16.8)	有	15(5.1)	15(5.7)	
	50年以上	187(63.8)	181(69.1)	無	293	262	
	不明	12(4.1)	11(4.2)	不明			
合計	293	262	業				

【表4】サークルの活動内容

活動名	活動内容
デイサービス	レクリエーション、温泉入浴、朝食、血圧測定等
ひばり教室	講堂にて唱歌等を合唱する
紙粘土教室	紙粘土で人の顔や額縁を作る
生け花	教室で先生の指導のもと花を生ける
書道	各自、手本を見て書道をする
手芸	先生の指導のもと手芸を行う
ちぎり絵	色のついた紙をちぎって貼り、絵画を制作する
ドライフラワー	木の実など自然の素材でドライフラワーを作る
詩吟	教本を皆で読んだり、作品を書いたりする
ヨガ	広い畳の部屋で音楽に合わせてヨガをする
高齢者大学(園芸)	園芸に関する知識の講座を聴講する
高齢者大学(踊り)	広い畳の部屋で音楽に合わせて踊る
高齢者大学(川柳)	皆で教え合い、川柳をつくる
高齢者大学(手芸)	先生の指導のもと手芸を行う

* 1 鹿児島大学助教授・工博 * 2 同大学院

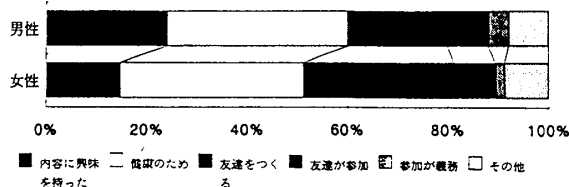
3. サークル参加の目的について

「サークル参加のきっかけ」と「サークル内の生きがい・楽しみ」の質問項目について、それぞれの特徴を把握するため①性別、②年齢、③世帯構成、④集会の形態（趣味の会とデイサービスに分類）の4つの属性によって分析した。各質問項目のカテゴリーは表5に示した通りである。

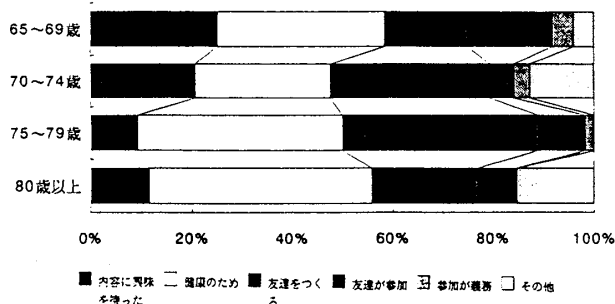
3-1. サークル参加のきっかけ

質問は単数回答で行った。いちばん割合が高い回答が「健康のため」、次いで「友達をつくるため」、「内容に興味を持った」、「友達が参加しているから」の順であった。

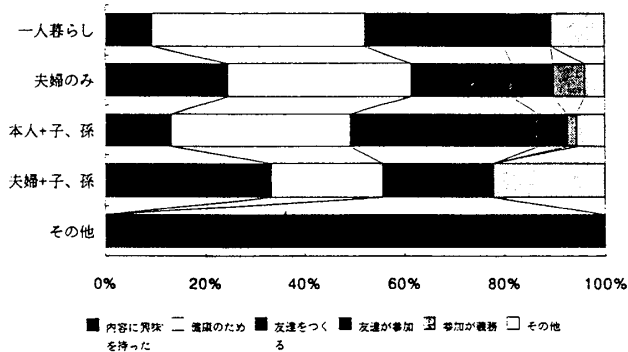
①性別でみると、男性は女性に比べ「内容に興味を持った」が多く、「友人をつくるため」が少ない。女性



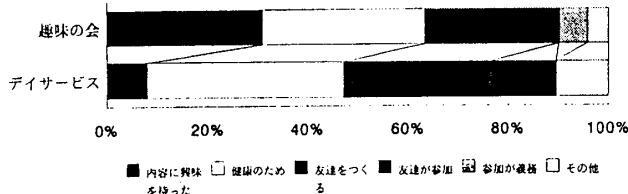
【図1】性別にみた参加のきっかけ



【図2】年齢別にみた参加のきっかけ



【図3】家族構成別にみた参加のきっかけ



【図4】集会の形態にみる参加のきっかけ

【表5】参加きっかけと参加の生きがいの調査結果

参加のきっかけ		サークル内の生きがい・楽しみ	
内容に興味を持った	32(16.2)	人と友達になれる	166(71.6)
健康のため	72(36.5)	活動内容が楽しい	93(40.1)
友達をつくるため	56(28.4)	社会に貢献できる	15(6.5)
友達が参加しているから	16(8.1)	趣味や教養を高めることができる	78(33.6)
参加が義務である	4(2.0)	健康を維持できる	84(36.2)
その他	17(8.6)	特にない	1(0.4)
不明	65(—)	その他	4(1.7)
合計	262	不明	30(—)
		合計	262

注)「参加のきっかけ」は単数回答、「サークル内の生きがい・楽しみ」は複数回答

は対人関係を求め、サークルに参加していると考えられる。

「健康のため」は性別に関わりなく高い割合である

【図1】。

②年齢でみると「内容に興味を持った」が高齢になるほどやや減る傾向にあり、「健康のため」と「友人をつくるため」が増える【図2】。

③世帯構成でみると、「内容に興味を持った」は「夫婦のみ」と「夫婦+子、孫」の配偶者がいる世帯が高くなっている。

「健康のため」は「一人暮らし」が最も高い。独居生活をしている高齢者は頼る人がいないため、特に健康に気を使っていると考えられる。

「友達をつくるため」は「本人+子、孫」と「一人暮らし」が高くなっている。これは配偶者がいない人は、精神的なものを求め、サークルに参加しようとすると考えられる【図3】。

④デイサービスは「内容に興味を持った」がいちばん高く、次いで「友達をつくるため」である。趣味の会では、「内容に興味を持った」がいちばん高く、次いで「健康のため」、「友達をつくるため」の順である【図4】。

3-2. サークル内の生きがい・楽しみ

質問は複数回答で行った。「人と友達になれる」がいちばん高く、次いで「活動内容が楽しい」、「趣味や教養を高めることができる」、「健康を維持できる」の順に高い。

①男女ともに「人と友達になれる」がいちばん高く、次いで「内容が面白い」である。男女間で特別な違いはみられない。

②年齢に関係なく「人と友達になれる」はいちばん高い。一方、「活動内容が楽しい」と「趣味・教養を高められる」が減る【図5】。

③どの世帯でも「人と友達になれる」がいちばん高い。

④デイサービスにおいて「内容が楽しい」は、趣味の会と比べると低い、「参加のきっかけ」と比べるとかなり高くなっている。

趣味の会では「健康のため」がデイサービスを上回っている。

デイサービスにおいて「趣味・教養を高められる」は趣味の会に比べきわめて低い【図6】。

3-3. まとめ

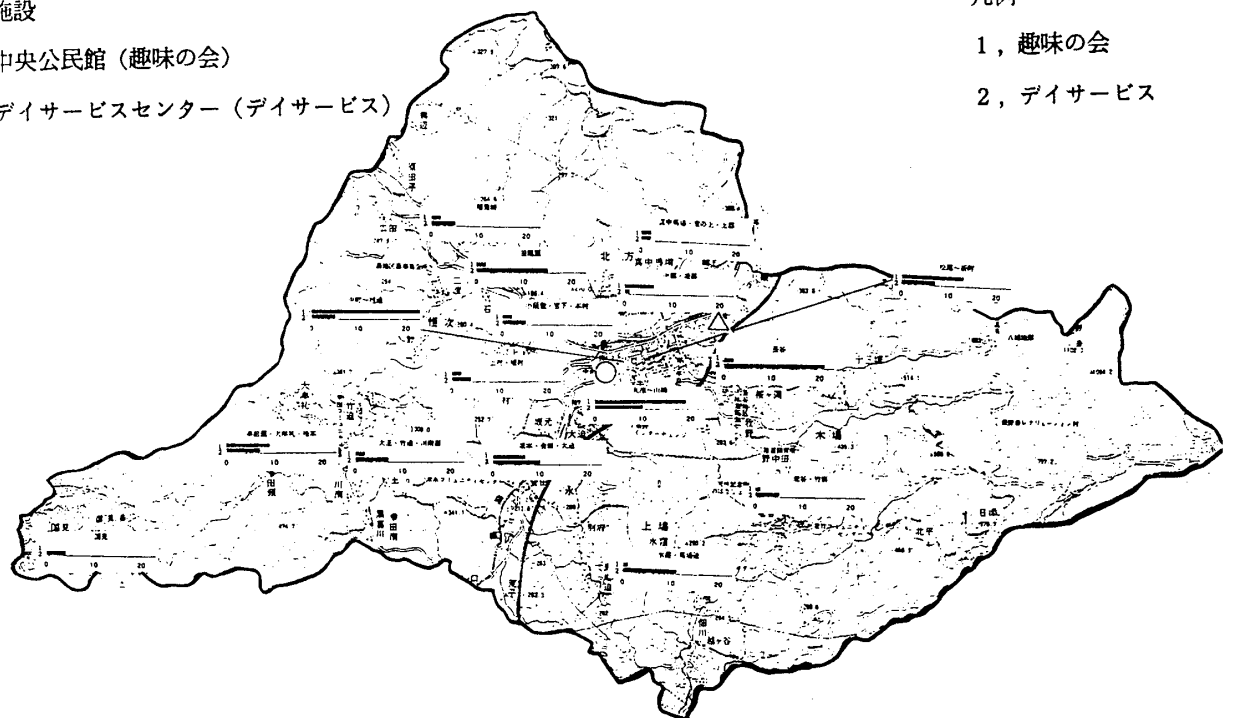
それぞれの特徴を比較すると以下のことが言える。

- 1) サークルは友人関係を良好にし、またその対人関係自体が楽しみ・生きがいにつながるものである。
- 2) 高齢に関係なく参加者は人との接触をサークルに求め、またその対人関係自体が「生きがい・楽しみ」になる。
- 3) デイサービスは、はじめは健康のために参加するが、次第に活動内容が楽しみに変わっている。また趣味の会は健康維持の目的を持つようになる。

以上のことから高齢者にとってサークルへの参加は活動内容が楽しみだけでなく、人付き合いを良好にするものであり、その対人関係自体が「生きがい・楽しみ」になると考察される。したがって、高齢者には一人で生きがいを見いだす契機を提示するより、人が集まる場を設けることが効果的である。またその集会の場の保障が必要である。そこで、それらを探るため

○：中央公民館（趣味の会）

△：デイサービスセンター（デイサービス）



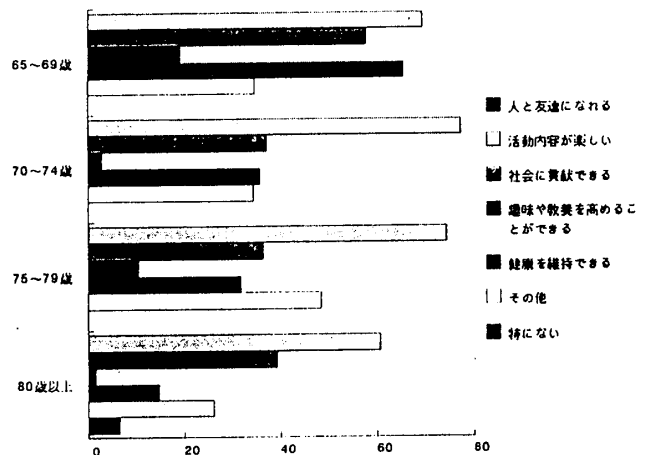
【図8】地域別にみる集会の形態別参加状況

サークルのアクセスについて言及する。

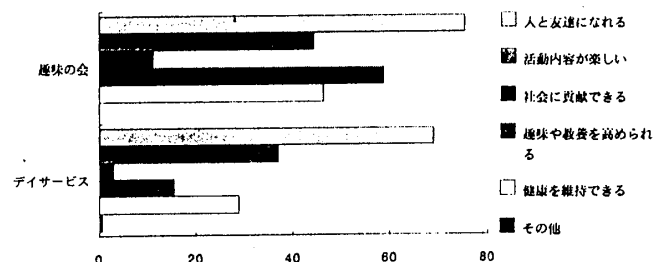
4. 交通手段からみたアクセスしやすさについて

交通手段の質問カテゴリーは表6の通りである。

デイサービスにおいて、「送迎バス」をほとんどの利用者が利用しているため、「送迎バス」の割合が高くなっている。そこで、まず送迎バスがあるデイサー



【図5】年齢別にみるサークル内の生きがい



【図6】集会の形態にみるサークル内の生きがい
凡例

1, 趣味の会

2, デイサービス

【表6】交通手段の категорияと単純集計
単位:人(%)

徒歩	35(15.2)	公共のバス	1(0.4)
自転車	14(6.1)	タクシー	2(0.9)
バイク	13(5.6)	その他	1(0.4)
自家用車	27(11.7)	不明	31(-)
知人の車	12(5.2)	合計	262
送迎バス	126(54.5)		

バスと送迎バスのない趣味の会とに分類し分析する。

次に、「送迎バス」以外の交通手段について、参加者個々の属性から分析する。

4-1. 送迎バスによる影響

「デイサービス」と「趣味の会」への地域ごとの参加状況を町の地図に落としてみた【図7】。

デイサービスでは参加者は町全体に分布しているが、趣味の会では特に使用施設である中央公民館が位置する町中心部に多い傾向がある。これは単に「送迎バス」の効果とみることができ、特に施設から遠く、交通手段がない高齢者は趣味の会への参加に支障をきたしていると考えられる。

4-2. 「送迎バス」以外の交通手段

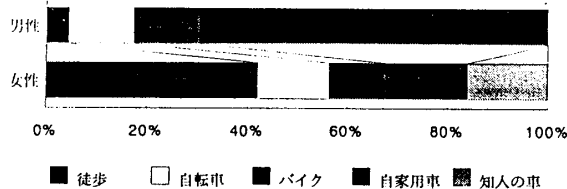
「送迎バス」以外の交通手段をみるために、デイサービスを除いた趣味の会だけの集計から考察を行う。

いちばん多いのが「自家用車」、次いで「徒歩」であり自身の交通手段で来る人が大半を占めている。それ以外は「知人の車」が10人(5.5%)いるだけで、公共のバス、タクシーなどで来ている人はいない。

性別でみると、男性の6割が「自家用車」で、次いで「自転車」、「バイク」でとなっており、大半が何らかの交通手段を使っている。一方「徒歩」は女性が高い【図8】。

また、「知人の車」は女性だけであった。これは男性は車を保有していることが多いためと考えられる。

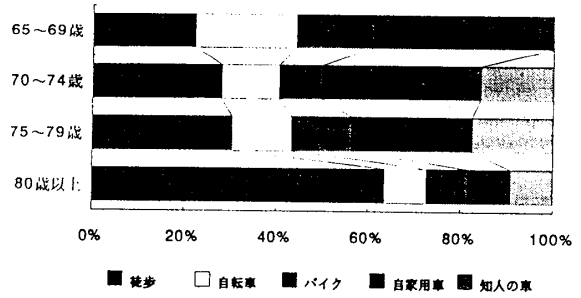
年齢でみると、高齢になるほど「徒歩」が増える。



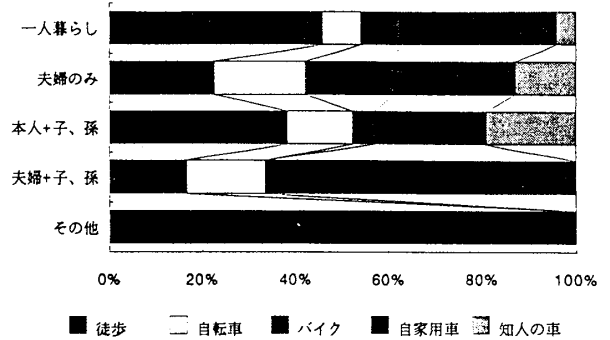
【図8】性別にみた交通手段

また高齢になるほど町中心部近郊から通っている傾向がある。このことからサークルの使用施設まで徒歩で通えない遠距離に住む高齢者は、高齢になるほど参加が困難になると考察できる。

家族構成でみると、配偶者のいない「一人暮らし」



【図9】年齢別にみる交通手段



【図10】世帯別にみる交通手段

と「本人+子、孫」において、「徒歩」の割合が高くなっている。これは配偶者のいない参加者の多くが女性であることに起因し、「徒歩」が高くなっていると考えられる【図10】。

4-3. まとめ

デイサービスの「送迎バス」は使用施設までの距離が遠い人や、交通手段のない高齢者にとって効果的である。また「送迎バス」以外の交通手段は、参加者の個々の属性によって違いがみられる。

5. まとめ

以上のことから、サークルは高齢者にとって、特に対人関係において重要な意義を持つと言える。またその参加は、施設から遠くに住む高齢者や交通手段の持たない高齢者にとって困難である。デイサービスの例をみても、送迎バスはこのような不便な地域に住む高齢者に効果的であり、サークルへのアクセスの保障が必要である。これまでの高齢者施策において、行政の後押しのない個人的なサークルのための送迎サービスはほとんど見られないが、個人的サークルにもアクセス保証のサポート体制の検討が望まれる。

またそのような交通の不便な地域において、集会の場に集落の公民館を積極的に開放したり、少人数の友人同士のサークルであれば仲間の高齢者住宅の余室を利用することも効果的であると考えられる。